山梨から放て！芸術文化のバイブレーション2017
ー山梨大学と官・民が連携した地域アートマネジメント人材育成事業の飛躍ー

大学から文化力 POWER OF CULTURE

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

平成29年度 文化庁
大学を活用した文化芸術推進事業

山梨から発信する 21世紀の音楽創造

～山梨の作曲家による作品コンサート Part Ⅱ

現代音楽におけるドラマとコメディー
ユーモアとペーソスの世界をお楽しみ下さい

藤原嘉文

ドン・キホーテ（詩・水野賢司）
コムソーヤ（虚無僧爺）の冒険（詩・水野賢司）

大内邦靖

３本のトロンボーンのためのシステム７

伊藤駿

小オペラ《清経》（原作・世阿弥）

2018年
3月4日（日）

14:00 開演（13:30 開場）
キングスウェルホール
（山梨県甲斐市下今井2446）

入場無料

主催：国立大学法人 山梨大学 教育学部
後援：山梨県、山梨県教育委員会、NHK甲府放送局、山梨日日新聞社・山梨放送、テレビ山梨、テレビ朝日甲府支局、朝日新聞甲府総局、産経新聞甲府支局、日本経済新聞社甲府支局、毎日新聞甲府支局、読売新聞甲府支局、共同通信社甲府支局、時事通信社甲府支局、エフエム富士、日本音楽表現学会

お問い合わせ先：山梨大学 教育学部 Mail geibun-music@yamanashi.ac.jp Tel 055-220-8250（土日・祝日を除く９時～17時）

プロフィールと作品解説
BIOGRAPHY
PROGRAM NOTES

山梨の作曲家による作品コンサート Part II

今回のテーマは、現代音楽の中の「ドラマ」と「コメディー」！
山梨の作曲家による「同時代の音楽」の中から、物語を楽しめる作品、
そしてコミカルな表現を生かした作品をお聴きいただきます。
ユーモアとペーソスの世界。面白かったら、どうぞ存分に笑ってください！

藤原嘉文

大阪生まれ。東京藝術大学作曲科卒、同大学院修了。日本交響楽振興財団第4回作曲賞、Haydn Association Abruzzo Giubileo 2000、Federal Music Week 2001 in Melbourne等に入選。2010年、作品集CD「巡りあう時空」発刊。2013年、共著「平均律クラヴィア曲集分析・演奏」発刊。日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、国際芸術連盟、オーケストラプロジェクト各会員。日本音楽表現学会理事。山梨大学大学院教授、昭和音楽大学講師。2017年4月より山梨大学教育学部附属中学校校長を併任。

ドン・キホーテ（詩・水野賢司）

演奏／バリトン：水野賢司　**ピアノ**：藤原嘉文

バリトンの水野賢司さんは自身の詩による作品を作曲家との共同作業で発表する『THE WORLD OF KENJI』というコンサート活動を続けておられます。身近な生きた日本語の中に、また楽しさ溢れるユニークな表現の中にしっかりとした思想が存在する ---- そんな水野さんの世界に魅せられ、拙作《ピエロ》ほか様々な作曲家による作品が生まれました。《ドン・キホーテ》は水野さんと私とのコンビによる記念すべき第1作。以来、水野さんと私のコンビで、また別の演奏家の方々によって数多く演奏されてきた、幸せな作品です。

セルバンテスのおなじみの小説「ドン・キホーテ」は、騎士道物語を読みすぎて現実と物語との区別がつかなくなった郷士が、遍歴の騎士「ドン・キホーテ」と名乗って旅に出かける物語です。村で出会った娘を「我が思い姫ドルシネア」と思い込んだり、風車を巨人と思って突撃する場面などは特に有名ですね。このような物語に現れる色々なエピソードを6つの曲にまとめました。

今回、水野さんとのステージは山梨初となります。一人何役も歌い分ける水野さんの表情、東北なまりのサンチョ・パンサ、めまぐるしいピアノとのか掛け合いなど、見どころ（聴きどころ）満載です。

コムソーヤ（虚無僧爺）の冒険（詩・水野賢司）

演奏／バリトン：水野賢司　**ピアノ**：藤原嘉文

水野さんオリジナルの脚本による作品です。

アメリカ生まれの冒険家「コムソーヤ」が、歳の衰えから「でっかいアメリカ」では思うように冒険ができなくなったので、国土の狭い日本へ移ることに。初めて目にした日本の風景に気に入るも、大和撫子にぞっこん。そこで出会った一人の女性と結ばれたは良いが、子育てや現実の生活にてんやわんや。挙げ句の果てに奥さんに捨てられ天涯孤独に。そこで目にした深編み笠。コムソーヤは虚無僧になって尺八吹き吹き --------。

ピアノには即興演奏の部分が設定されていますし、さらに、バリトンパートにも水野さんお得意の予期しない即興的なフレーズが出てきます。演奏の度に表現が変わる「生もの」のような作品。その日のお客さんのノリで曲が自由自在に変わっていきます。いわゆるクラシック系現代音楽（ポピュラー音楽ではないという意味です）でも即興的なステージ作りが出来るのではないか、という発想がコンセプトとなっています。

今回はどのような《コムソーヤの冒険》になるでしょうか？お楽しみに。

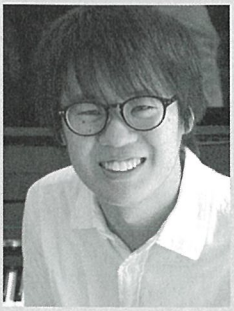
大内邦靖

静岡県出身。東京学芸大学卒業、および同大学院修了。トロンボーン奏者。大阪トロンボーンコンペティション ソロ部門入選。Euro-Japan Music Academyにおいて大賞受賞。2000年、日本トロンボーン協会・日本現代音楽協会共催の「現代の音楽展 トロンボーン・フェスタ」における入選を機に、演奏家の立場から楽器の特性を生かし、聴衆との繋がりを重視したアンサンブル作品の創作活動を展開。KOOWS Edition、Hyper Collectionから多くの作品が出版されている。山梨大学大学院芸術文化教育講座准教授。

3本のトロンボーンのためのシステム7

演奏／テナー・トロンボーン：深澤真紀子　古橋孝之　**バス・トロンボーン**：吉田志津代

七変化、七曲がり、七色、七つ道具など「7」という数字はバリエーションを象徴する数として捉えられています。（因みに、トロンボーンには7つのスライドポジションがあります。）この作品は1996年、自身が所属するハイパートロンボーンズの「自作自演コンサート」のために作曲しました。CCD♭CFE♭Cという7つの音からなるテーマによる7つのバリエーション（変奏曲）です。そもそも「システム7」とは、作曲当時使用していたコンピュータのOSの名称です。この機械仕掛けの不思議な箱に対するイメージをもとに作曲しました。当時は楽譜を打ち込んでいる最中、よくフリーズして画面が固まり、半日かけた作業を台無しにしました。・・・・しかしながら、これらの事は、聴衆のみなさんにとっては大した意味を持ちません。ただ単純に作品を楽しんでいただければ本望です。会場でおこるハプニングも含めて、お客様を巻き込んだ形で作品が完成します。



伊藤駿

1992年生まれ、山梨県昭和町出身在住。山梨大学教育人間科学部音楽教育専修、及び同大学院教育学研究科でクラシック・現代音楽の作曲を学ぶ。作曲を藤原嘉文、クラリネットを橋本雪子の各氏に師事。作品に歌曲「永訣の朝」、「素描～ピアノのための4つの小品」等。現在は会社員として働きながら、作曲活動を行う。2018年3月10日・11日には、山梨大学在学時に学生有志で企画した創作ミュージカルをベースとした、ミュージカル『シンデレラ～ねずみたちのプリンセス～』がコラニー文化ホールで再演される。

小オペラ《清経》（原作・世阿弥）

演奏／ソプラノ：原千裕　**バス**：山野靖博　**語り**：千葉総一郎　**ピアノ**：林正浩

2015年作曲。第65回山梨大学卒業・修了演奏会にて初演されました。世阿弥（1363?-1443?）の書いた謡曲『清経』を原作・テキストとして、ピアノ伴奏の「小オペラ」を書きました。今回は演奏会形式での演奏となります。

『清経』は、源平合戦の中、絶望に駆られて入水自殺をした平清経と、彼の妻との物語です。再会の約束をしたにもかかわらず自ら命を絶った清経を恨む妻と、その恨みによって自らの形見を受けとってくれなかったことを責める清経の霊との会話が中心になっています。

とても面白いことに、最後までこの2人、和解しません。妻は約束を破ったことがどうしても恨めしいし、清経もそれに反発して言い返してしまう。お互いに歩み寄らないまま、清経は勝手に成仏していきます。しかし、言葉には出しませんが2人とも、愛する者との今生の別れ、その悲しみを共有しています。そしてその悲しみに互いに共感しあっています。だからでしょうか、一見するとただの夫婦喧嘩なのに、何かとても美しいものを感じてしまいます。

こういった2人の「関係性」を、音楽で描きだすことができないかというのが、当時この小オペラ《清経》を制作するにあたって意識していたことでした。清経と妻だけではありません、そこにある空間や、気の流れ、様々なものの関係性を描きだす・・・。そのどこか一音でも、「共感」してくだされば、幸いです。